

～Nice people of Guam～

五十畑 大志

いくつかのレッスンを重ね、ついにグアムに旅立つ日がやって来ました。

応募してから早くも3ヶ月、様々な思いを胸にいざ出国。一同グアムへと飛びました。

空港につくとそこにはグアム生達とその家族の方々が。勇気を出して、自分から「ハファディ！」(現地の言葉でこんにちは)と挨拶をしたら、むこうもにっこりとして受け入れてくれました。心が通ったと言うのでしょうか、異言語の人たちといっぺんに仲良くなったかのような気がして大変うれしかったので、最初の不安はもうどこかへ消え失せてしまっていました。

僕はグアムに来るのは2回目ですが、今回はホームステイという未体験のゾーン。新鮮な気持ちいっぱいでも過ごしました。

グアムでの生活では驚く事がたくさんありました、まず食事。家庭での食事はバラバラで、全員が集まって食べる事はありませんでした。そしてファーストフードはどれも大きい！両手でやっと持てる大きさのハンバーガーを食べました。それからお風呂。シャワーしか浴びずに、しかも水しか出ないと言うのはとても驚きました。そして何より人々のおおらかさ。誰もが一声かければニコッと笑ってくれるこの優しさは、日本ではない人も多かったです。

僕のホームステイ先の friend の名前は Matthew。魚を見るのと何かに色を塗ったりするのが好きだそうです。あと野球も好きだし、空手も習っている。僕が剣道の話をしたら、興味を示してくれました。初日に行った水族館では喜んでぼくを案内してくれたし、Matthew のペイントしたおもちゃのライフルは見事なものでした。楽しい時間は早く進みます。恋人岬ではロマンチックな景色をながめ水族館で意気投合。

次の日は学校です。学校の授業も又驚きでした。休み時間にも驚き！男女区別無く話したり遊んだりしているのにはビックリしました。そしていよいよ練習してきたパフォーマンスを見せる時が来ました。どれもうまい事成功！長縄跳びが予想外の大ウケなのは良かったです。ここでもグアムの人たちは寛大で、一言 Hello! と声をかければすんなり笑い返してくれる事のうれしさと言ったらなかったです。グアムの人たちは、誰とでもどこでもどんな人同士でも仲がよく、互いにオープンで(時には痛そうなコミュニケーションも見られますが・・・)でも、しっかりとしている!? そんな仲間達でした。海へ行った事も忘れられません。エメラルドグリーンの遠浅のビーチで Matthew 達とずっと遊んでいました。

6日間はあっという間に過ぎ去り、とうとうグアムと別れる日がやってきてしまいました。僕は Matthew に「日本に来るのを楽しみに待っているよ」と英語で伝え多くの方々に見送られながらグアムを離れましたが、それと同時に、又絶対にグアムに行って Matthew に会う! と決心しました。あたたかい家族、そして友達、多くの自然の中にあるこのグアムを忘れる事はできません。

僕がこうして国際交流をする事ができたのは

KIRA の方々をはじめ、多くの方や家族の支えのおかげだと思います。とても貴重な体験をさせていただき大変感謝しています。本当にありがとうございました。

